

公益社団法人日本ホッケー協会 平成 28 年度第 3 回理事会(臨時)議事録

1 日時 平成 28 年 9 月 16 日(金) 午後 1 時 00 分～午後 4 時 14 分

2 場所 岸記念体育会館 5 階 504.505 会議室
東京都渋谷区神南 1-1-1

3 出席者(敬称略)

理事総数 26 名 出席理事 18 名

(出席)

理事 寺本祐治、宮野正喜、山口修一郎、瀧上正志、安西浩哉、高井通昌、
今庄充世、中村康夫、穴田直樹、奥田好廣、中村真理、古賀久義、
織井隆司、宮田知、近藤聡史、内藤亮治(貴詞)、野崎博典、長田和雄

監事 二島豊太、田中誠

法制顧問 續孝史

(欠席)

理事 横田努、濱田清二、千野雅人、馬場治男、山野秀一、林勇次、喜久生明夫、中村哲也

4 議長 寺本祐治理事

5 審議事項

- (1) リオオリンピック報告
- (2) 特別委員会設置
- (3) 平成 28 年度 JHA 組織図
- (4) マスターズアジアカップ 2017
- (5) 東京 2020 オリンピック実行委員会組織図
- (6) その他

○議事の経過の要領及びその結果

定刻、中村事務局長が開会を宣言し、本理事会は定款第 36 条の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨を告げた。会長である横田理事が欠席のため、定款第 38 条に基づき、寺本理事が議長に選出された。議事録作成人に近藤理事、議事録署名人に二島監事、田中監事を選出、新任の内藤理事、野崎理事、長田理事の挨拶の後、審議事項の審議に入った。

(1) リオオリンピック報告

資料に基づき次のとおり山口理事が説明を行い、中村真理理事が補足説明を行った。

山口：競技成績は不本意の10位。出場国数はアジアが最も多いが、すべての国が予選敗退。大きな期待に応えることができず申し訳ない。現実を直視し、これを乗り越える必要がある。強化本部だけでなく日本協会全体としての課題が明確となったので、それを解決するベストシナリオを作成し、国内全体が一致団結することで持てる力を2,3倍としていきたい。報告書に改善が必要な項目を記載。国内外のスポーツ界でJHAがどのような評価されるかにも直結する問題でもある。今後のシナリオ作成において、リオで優勝したベルギーを成功例として注目し、内容を調査した。ベルギーは12年前から強化をプロジェクト化し、10人以上のスタッフ、潤沢な予算で行ってきた。ここに競技人口が10万人以上いる列強に勝てるヒントがある。妃殿下からは、外国人ハーフの登用、底辺の拡大への取り組みが必要で、その施策においてスポーツのあり方を考え、強化につなげることとお言葉を頂戴している。リオでは、団長としてのロビー活動も行ったが、十分な対応ではなかったと考えている。4年後の東京はJHAが取り組むべき最大のイベントであり、それに対してJHAが一致団結して2,3倍の力を出すために何に取り組んでいくかを理事はじめとして検討し実行していく必要がある。

中村(真)：JOCへの報告書は8月末に提出済みだが、今後校正作業に入るため、理事から意見があれば、修正をしたい。シニア女子は他に比べ多くの強化費を頂きながら不本意な結果をお詫びすると同時にお礼を申し上げる。初戦に同点に追いつかれてしまったことを引きずった。苦しい状況を跳ね返すオプションを持っていなかった。敗因の大きなひとつは、心構え。メダルを取らないと日本に帰れないぐらいの心構えがあったかということ。メンタルもレベルをあげていく必要があると痛感。本当に意味での地力に実力差があった。強化が十分でなかったという反省をしている。出場選手は厳しさを感じていると思う。その経験を次に伝え、体現することも使命。強化本部だけでなくホッケー界をあげての地力をつけていく必要がある。

説明が終了したところで、次のとおり質疑を行った。

内藤：山口強化本部長がIFとのロビー活動を行っているが本来は強化に専念すべき。なぜJHAから他に出ていなかったのか。

山口：オリンピックは協会を挙げて取り組むことにも関わらず、他国に比べてもJHAから出ている人が少ない。これで4年後は大丈夫かとの指摘や批判を受けた。リオでは各界のVIPクラスが多くおり、豊田章夫氏やIOC、JOCの幹部が総力戦で来ており、厳しいスケジュールの中、ホッケーも観戦して頂いた。鈴木スポーツ庁長官、橋本団長も観戦されたので、JHAスタッフでやりくりをして対応した。期間中にFIHの会議もありワールドリーグについての意見を言う場もあったが、その場にいた私が参加しただけ。FIH要人と同じホテルに泊まって話をするチャンスも多くあったが、100%活用できなかったことは反省点。

内藤：担当者を複数おき、万全の準備と対応が必要。対応を手分けする等のやり方はあったのではないか。IOCバツハ会長の事務局長はホッケー経験者でありそのコネも使える。どんどん活用していくべき。

今庄：日本人はロビー活動が得意でない。ロビーイングによって得られる情報は強化にも役立つ。顔なじみになることがどれほど重要かを認識してもらいたい。

山口：他国チームは様々な役割のコーチングスタッフが大勢いる。国を挙げて取り組んでいる。

宮田：選手の個々の評価はどうか。

中村(真)：選手個人からレポートは提出されている。

奥田：勝敗分析以外の様々なレポートが出されているが、ロビー活動、競技役員、FIHの動きといった情報がオープンになっていない。その情報を財産として残し、活用していくことが必要。これまで同様なコーチングスタッフや運営に関する報告もあったはず。ホッケーは強化だけでなく、広告や運営も含めてすべてを進展させていく必要がある。強化スタッフだけでなく、その他スタッフも国外調査が必要。

寺本：国際力が日本は弱いという認識をJOCも持っており、その強化のための研修を行っており、近藤理事が参加中。

近藤：各スポーツ団体の国際連盟の要職や委員に日本人を送り込み、ロビー活動、情報取得、ルール、発言において優位に立つために企画された研修。必要な知識、技能について学び。各団体から40名程度が受講。基本は英語で卒業率は半分の厳しい研修。スポーツ間の横のつながりができることが大きい。学んだことはフィードバックしたい。

古賀：アジア、IFでの発言権を得ようとするなら自国で大会開催をすることが重要。

二島：サポートやロビー活動には費用の手当ても必要。

内藤：選手以外のリオ派遣は誰が決定したのか。

中村(康)：技術委員会は千野競技部長、平尾審判部長、広報部は西村氏、強化本部は山野委員、中野委員を派遣。

内藤：ロビー活動について手当てしておくべきではなかったのか。

中村(真)：北京オリンピックでは協会幹部が来ることはなかった。

宮野：アテネ、北京でのロビー活動は実施していない。小倉氏に任せていた。今回は寺本理事、安西理事が自費で行く予定であったが、両名とも急遽都合が悪くなった。代役を立てられなかったことは反省点だが、個人負担であることも考慮すべき。派遣者については理事会で決定済。

中村(真)：改善が必要。選手団のみが行くことが多い。

瀧上：今年は多額の強化費を充てた。ロビー活動費の歳出に対する歳入も強化費に充当という形。今回はオリンピックで良い成績を上げ、補助金寄付金の増額をめざす考えであった。

(2) 特別委員会設置

資料に基づき中村事務局長が次のとおり説明を行った。

中村(康)：リオの結果をふまえ、東京大会に向けてJHAの組織を見直すために専務理事、常務理事、強化本部長が進退伺を会長に提出した上で、改革委員会を設置する。JHA人事、東京オリンピックに関連する事項についての審議を行う。11月19日までに時限設置の委員会となる。

説明が終了したところで、次のとおり質疑を行った。

織井：進退伺の意味は何か。

寺本：試合結果だけでなくオリンピックの成果の総合的な評価とJHA改革を進展させるため。

織井：職を辞するのか。

寺本：進退を会長に一任している状態。全員が辞任すると協会運営が滞り問題が生じる。

二島：進退伺を出すということは失敗という評価だったからか。

宮野：改革のためにいったん白紙に戻すためと理解。失敗とは思っていない。

二島：失敗でないなら進退伺は不要では。

宮田：失敗ではないが、期待に届かなかったことに対する責任との理解。

二島：監事意見として、ロビー活動ができなかったのも、これを強化するならば、これに予算を重点的に配分することになる。予算には限界が有り、適正配分が問題となる。そこで、予算の適正配分方法も改革委員会の協議事項に入れるべき。

瀧上：業務執行理事会においては、オリンピック終了時には強化本部の役職はリセットするのが本来という考えである。強化本部がリセットしないため、強化本部長も含め業務執行理事も進退伺を提出し、改革委員会で、今後のJHAのより良い方向性を見出すと言う意味合いである。

内藤：外部有識者の候補は誰か。

中村：川淵三郎氏、小倉文雄氏を候補としている。

織井：進退伺でなくいったん役職を辞任してから進めるべき。小倉氏が外部とは思えない。

寺本：ロンドン、北京でも強化本部長兼副会長は辞任してから後任の本部長を決定していた。

古賀：改革委員会に決定権あるのか。

寺本：理事会への提案を行うもの。決定権は理事会。

穴田：改革委員会は人事を決定するだけなのか。試合結果が悪いのは強化本部だけの問題ではない。各委員会の反省がそろってからの議論ではないか。それがない中で人事を決めるのは難しい。改革委員会は強化本部だけでなくJHAすべての組織を見直すべき。

宮野：そのための改革であり、各委員会からの反省事項も提出され、議論する。

顧問：進退伺を預けている状態で役職は継続しているもの。リオが失敗かどうか外部有識者の意見を頂きながら改革委員会で議論するものではないか。その結果で進退を決定すればよい。

中村(康)：小倉氏は外部ではないとの意見があったが外部有識者として良いか。

内藤：小倉氏はJOCや現在は東京オリパラ組織委員会に所属しており、JHAに対し重要な組織からの外部の視点で評価して貰える。JOC会長はじめ人脈が広く適任である。

山口：監事にも委員会に入って頂きたい。

二島：何をいつまでに決定するのも明確にしてもらいたい。監事意見として、専務理事、常務理事、強化本部長が進退を会長に一任している状態は不自然で有り、協議事項にはリオの総括も含めてもらいたい。

寺本：協議事項にリオの総括を含めて採決を行う。

質疑が終了し、協議事項にリオオリンピックの総括を行うことを追加した内容での改革委員会の設置について採決を行った。その結果、賛成18名、反対0名で承認された。

(3) 平成28年度JHA組織図

資料に基づき中村事務局長が次のとおり説明を行った。

中村(康)：マスターズ立上準備室を新たに設置し、それに伴い人事を若干変更したい。

説明が終了したところで、次のとおり質疑を行った。

寺本：マスターズ立上準備室は時限的組織。

質疑が終了し、資料記載事項である国際委員会委員長を斉藤郁夫に訂正のうえ、組織図も含めて採決を行った。

その結果、賛成 18 名、反対 0 名で承認された。

(4) マスターズアジアカップ 2017

資料に基づき中村事務局長が次のとおり説明を行った。

中村(康)：日本マスターズホッケー連盟を設立し、JHA 傘下団体として活動させることを考えている。

総会承認後にマスターズアジアカップの実行母体となる。小学生からマスターズまでのつながりを進めるもの。

野崎：日本グランドマスターズホッケー協会は 100 名の会員。JHA 登録への推進を行い、マスターズ連盟の規約、JHA 登録規程との整合を図り、女性の参画も行っていく。

説明が終了したところで、次のとおり質疑を行った。

古賀：マスターズ世界大会の統括団体は FIH ではないので注意が必要。それぞれの協力関係はある。質疑が終了し、日本マスターズホッケー連盟の設立を前提として JHA が第 4 回アジアカップグランドマスターズ大会の主催団体として JHA が誘致を行うことについて採決を行った。その結果、賛成 18 名、反対 0 名で承認された。

(5) 東京 2020 オリンピック実行委員会組織図

資料に基づき安西理事が次のとおり説明を行った。

安西：2020 実行委員会組織を変更予定。副委員長の小倉氏をアドバイザーに、近藤理事、東京ホッケー協会会長を副委員長に登用。また FIH, 東京 2020 組織委員会との連携を深める専門部を設立。東京ホッケー協会との連携を強めるためにも同協会の役員を積極的に登用していきたい。

説明が終了したところで、次のとおり質疑を行った。

織井：アドバイザーパネルとアドバイザーの違いは何か

安西：アドバイザーパネルは豊富な経験な知見をもって東京大会時にボランティア的にご協力いただける方々を組織化していくもの。アドバイザーは 2020 組織委の小倉氏の知見と人脈に基づきアドバイスを頂く方との位置付け。

奥田：技術委員会との関係はどうか。

安西：オリンピックに関する窓口は本組織に一本化させる。その後、情報共有、協力を図っていく。重複しないように留意する。

奥田：委員長と部長が兼務しているが、委員長は重責であり、それぞれの職務に全うできるように兼務を解消するように努めてもらいたい。

質疑が終了し、組織改編について承認採決を行った。その結果、賛成 18 名、反対 0 名で承認された。

(6) その他

寺本理事がシニアチーム外国人コーチの打診開始に関し、次のとおり説明を行った。

寺本：東京オリンピックに向け男女シニアチームのコーチへの打診を開始したい。リオが終了し、今から動き始めないと有望なコーチを獲得することが難しくなることを考慮している。JOCと予算についても協議をしている。ヘッドコーチやアドバイザーかどのような形態となるかについても改革委員会の決定を受けてからの交渉とする。特に男子選手からの外国人コーチの要望が出ている。

説明が終了したところで、質疑を諮ったが特になく、男女シニアチーム外国人コーチに対する打診を開始することについて採決を行った。その結果、賛成18名、反対0名で承認された。

寺本理事よりアンケート配布に係わる説明がなされ、各都道府県協会、関係団体に送付。改革委員会の資料とすることが確認された。

引き続き報告事項について説明がなされた。主な内容、確認事項は次のとおり。

(1) 平成28年度決算見込み（瀧上常務理事）

- ・ 当初予算1000万の歳出超過予算。JOC補助金見込より900万減、オリンピックメダル期待分300万、前事務局長和解金450万の支出等約2600万円の赤字決算見込み。JOC補助金2次内示を待って、強化事業の再検討を検討する。

(2) 西中前事務局長退職金請求事件和議経過報告（瀧上常務理事）

- ・ 西中氏が在職中に問題のある行動をしたことは認識されるが、労働事件における労働者なので退職金を支払うこととの裁判所の和解案を受け入れた。

(3) 全国高体連ホッケー専門部より

- ・ 部員数減による大会参加が難しくなりつつあることをふまえ、大会開催時期を12月とし、3年生の参加を可能とした。チーム数は16から24に変更し、エントリー人数も増やす。4年間継続実施し、4年後に評価のうえ見直しをする。至近2年は近畿で開催。
- ・ ブロック予選会で各都道府県から2校のエントリーを可能とする。ブロック予選会が2倍規模になるが、運営方法はブロックに任せる。
- ・ 大井競技場の後利用も考えてもらいたい。有料大会化についても今後検討。

(4) 事務局より

- ・ 南條氏と日本リーグの雇用委託期間は9月末で終了。以降、給料と業務内容について条件が合わず契約更新等、双方行わない。9月末で退職。産休の横田氏の代理として木村氏をアルバイト採用。横田氏は2017年1月から職場復帰予定。

(5) その他

- ・ 日本ホッケー後援会を8月1日に設立した。個人会員は年会費3000円、法人会員は10万円または50万円。（高井常務理事）

- ・ オーストラリア協会との相互交流の MOU の締結を 2017 年 1 月 1 日付で行う予定。調印式をやり、記者発表を行いたい。費用負担交渉は今後実施。（寺本専務理事）
- ・ 普及委員会として、小中高校の人数減少の影響、マスターズの運営実態を調査するため都道府県協会へアンケートを行う。卒業等でホッケーをやめた人に戻ってもらえる施策検討のために実態調査を行うもの。（奥田普及委員長）
- ・ HJL で行った熊本地震被災者への募金活動結果は 54 万円程度。10 月に熊本県に手渡す予定。コカ・コーラの選手 2 名に協力をお願いする。（奥田普及委員長）
- ・ HJL 試合映像を yahoo スポーツナビに掲載している。見てもらうように働きかけをお願いしたい。また、選手の海外派遣プログラムがあるので活用してもらいたい。（奥田普及委員長）

○監事所見

提示資料は何を議論するかを明確にしてもらいたい。

○次回理事会日程

日時：平成 28 年 11 月 19 日(土) 午後 1 時から

場所：貸会議室プラザ八重洲北口 3 階 6 号室

以上で議事の全部の審議を終了したので、議長は 16 時 14 分、閉会を宣した。

上記記録を明確にするため、この議事録を作成し議長並びに議事録署名人が自署捺印する。

平成 28 年 9 月 16 日

議事録署名人

監 事 二 島 豊 太

議事録署名人

監 事 田 中 誠

議 長 寺 本 祐 治